

重要無形文化財（木工芸） 保持者 小椋芳之氏



(制作中の小椋芳之氏)

木工芸には、^{さしもの}指物・^{くりもの}刳物・^{ほりもの}彫物・^{ひきもの}挽物・^{まげもの}曲物等の技法があり、いずれも長い伝統に培われた技術上の特色を持ち、現在に伝えられている。

小椋芳之氏は、現在の鏡野町羽出に代々居住した木地師の後裔で、小学生のころより父に師事し、木材を轆轤で回転させながら刃物で椀・鉢・盆等の丸い器物を削り出す挽物技法を習得した。氏は、自ら鍛冶により作成した^{ろくろかん}轆轤鉋と轆轤とを巧みに使って挽いた木地に、漆と砥の粉を練って塗り堅地にし、研ぎ出し^{ふきうるし}拭漆の技法で仕上げる、代々受け継がれた技術によって上品な作品を作り上げており、木地師の技術を伝える数少ない存在となっている。

平成七年日本伝統工芸展に初入選して以来、現在までに十二回の入選を果たし、平成十年日本工芸会正会員となった。伝統工芸木竹展で入選三回、日本伝統工芸中国支部展で入選七回を数え、なかでも平成二十二年の第五回日本伝統工芸中国支部展では山陽新聞社賞を受賞している。また、平成十九年には津山市指定重要無形文化財木地師及び^{ぬし}塗師技術保持者として認定されている。